



2019年(令和元年)

5月8日

水曜日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

ニュースウェブ東奥

回送回 電話 55
サイトは 55

〒030-0180 青森市第二礼儀町3丁目1番89号 ©東奥日報社 2019

弘大教員進む女性登用

弘前大学(佐藤敬学長)で、女性教員の登用が増えている。今年4月現在の教員に占める女性教員(助教以上)の割合は18.5%で、10年前(2009年5月)より6.8%増えた。女性登用の取り組みにより、医学部医学研究科などで女性教授不在の状態が解消された。同

大は、女性研究者の在職比率向上などを旨とする文部科学省の補助事業「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」(16~21年度)に取り組んでおり、今年3月の中間評価で3段階中最高の「S」を獲得した。(菊谷賢)【関連記事20面】

在職18.5% 10年前より6.8%増 国事業評価「最高」

同大によると4月現在、教員707人のうち女性は131人。女性比率は18.5%で、「ダイバーシティ事業」で目標としている「21年度10%」の達成は目前に迫っている。

事業前半の16年度から18年度までの3年間で、教授に昇任した女性は6人。准教授への昇任・採用は8人。講師への昇任・採用は9人。医学研究科、理工学研究科、農学生命科学部で女性教授不在の状態は解消された。18年には、大学院保健学研究科長・保健学科長に齋藤博子教授が就任している。

同大は、教員人事選考で透明性を確保したり、女性研究者支援ネットワークを構築したりしてきた。女性教員と意見交換するランチ

ミーティングを開き、女性も働きやすい環境づくりにも努力してきた。

18年1月に農学生命科学部教授(分子生物学)に就任した年田平里さんは「大学は、女性教員の能力を公平に評価してあげていると感じる。教員公募に対する女性の応募はまだ少ないが、大学の取り組みが浸透すれば応募が増えるのではないかと語った。

同大男女共同参画担当の石川隆洋理事は「佐藤学長のリーダーシップの下、学内全体で女性登用の意識が高まっている」と語った。

国立大学協会の資料によると、18年の女性教員比率ランキングで弘大は全国86国立大中31位だったが、理系がメインの大学は女性教員が少ないなど、大学の分

野達成によって比率が異なる傾向があるため、単純比較はできない。

©東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです